

キャンパス内の野良猫に対する
避妊・去勢手術の実施についての議案

制作者:瓜生山ねこの会

瓜生山ねこの会

私たち瓜生山ねこの会は、大学内でのねこに関する問題に取り組み、ねこ好きな人も、ねこ嫌いな人も、そしてねこ達もが生活しやすい環境作りを目指す非公認サークルです。

学内で病気のねこを頻繁に見かけたり糞尿被害の発生をきっかけに、学内のねこに対して学生自身がアクションを起こそうと昨年度から発足したものです。

メンバーは5名で公認サークル申請を行っています。

現在、学内では約25匹のねこが確認されており、アレルギー体質の人には生活しづらく、ねこによる被害も顕著になっています。そこで私たちは、ねこの頭数がこれ以上増えないように避妊去勢手術を施し、その後もエサやりや健康状態のチェック、住処の整備などを行い、長期的な取り組みでねこを管理していこうと考えました。

今回議案として上げさせて頂いたのは、私たちが学内のねこに対して避妊去勢手術を行う事を認知してもらい、学生のみなさんから了承していただきたい、という事です。

大学内での猫に関する被害、出来事

2000年4月～6月頃 大学前のバス停付近、現瓜生館の前付近でねこが箱に入れられ捨てられるという出来事が立て続けに3件発生。1件目での捨てねこ7匹は全て里親を探し引き取ってもらえたが、以降は里親が見つからず計10匹を保健所へ引き渡した。

砂地となっている場所（昔の喫煙所など）で糞尿被害が多発

2004年春頃 南棟（現至誠館）にてねこが出産。里親が見つからず子ねこ3匹を保健所に引き渡した。

2011年春頃 興心館3階K31教室の天井にてねこが出産し、壁と天井を一部破壊し救出する出来事が発生。救出された子ねこは里親を探し引き取ってもらった。

2011年夏頃 学内にてケガにより足がボロボロになったねこが学生に保護されるが、虐待を受けたと勘違いし通信生が警察に通報する出来事が発生。ねこはその後空間演出デザインの学生が病院に連れて行き、治療を受け回復した。

2011年11月 学生が糞尿被害対策に、木彫室にねこが入り出すのを防ぐため教室の抜け穴を塞いだところ、誤って子ねこを2日間閉じ込めてしまう出来事が発生。子ねこは救出し里親に引き取ってもらった。

上記の内容は施設科の小川さんの証言によるものや、瓜生山ねこの会の都築が対応に当たった事例です。ほとんどの件を施設科の方が担当されており、施設科としても困っている状況にあります。おそらくこの他にも私たちの把握していない被害や事件が発生していると考えられます。

京都市の野良猫に対する対応

京都市では野良猫の鳴き声や糞尿に対する苦情が多く、野良猫の存在は問題視されています。

しかし、全国の自治体で20万頭の猫が殺処分されている現状を考え、殺処分する頭数が少しでも少なくなるよう、2018年度の殺処分数を07年度の殺処分数の6割に減らす目標を掲げ、京都市も様々な対策を実施しています。

・京都市まちなこ活動支援事業(避妊去勢の促進)

野良猫問題の根本的な問題解決が目的であり、猫による被害の現状を十分認識し、野良猫を排除(=殺処分)するのではなく、人間が飼育管理する事でトラブルをなくすための試み。

地域住民によって適切に管理された野良猫を、社会法人京都市獣医師会の協力のもと、避妊去勢手術を無償で施し、手術後の野良猫を”まちなこ”(全国的には地域猫と呼ばれる)として地元で飼育していくという事業。

ただし、この試みは将来的に飼い主のいない猫をなくしていく事が目的であり、実際に数を減らしていくには複数年の時間を必要とするため、長期的な目で見えていく必要がある。しかし、大学は支援の対象外となっている。

・里親探し

京都市動物愛護管理センター、京都市家庭動物相談所では、収容されている猫の譲渡を積極的に行っている。

また、まちなこ活動支援事業でも野良猫の新しい飼い主を探し飼い猫にしていくことを奨励しており、野良猫問題対策の有効な手段としている。

・「京都市動物愛護センター(仮称)」の設置

まだ構想の段階ではあるが、動物愛護に関する事業を推進するための拠点施設の設置が検討されており、施設の収容能力を拡大することで収容期間を長くし、里親を探すことで殺処分数を減らしていこうという狙いがある。

以上のように、京都市の対応としては「猫」の問題ではなく「地球環境の問題」としてとらえ、「野生動物」としての野良猫と人間の共生を目指した対策を実施しています。

また、「動物は命あるもの」として認識し、殺処分ではない方法での対処を進めています。

この考えは京都市だけではなく日本全体にも浸透しており、各地で様々な対策が取られています。

中でも地域猫活動(京都市で言う”まちなこ”)は野良猫の負担も人間の負担も少ないため、全国的にも注目されている野良猫問題対策です。

京都市獣医師会の野良猫に対する意見

京都市獣医師会は、京都市内に在住、勤務している獣医師で構成された社団法人で、京都市のまちねこ活動にも協力しており、人と動物のよりよい関係のもと、豊かで潤いのある生活や社会を実現するために様々な事業を行っている団体です。

学内で猫が増えている事、猫による被害が起きていることを相談し、猫と学生のより良い共生のためには何が必要か伺ってきました。

- ・学内の猫をこれ以上増えないようにする対策が必要。

「減らす」のではなく「増えないように」する必要があり、そのためには現状を十分理解し、避妊去勢手術を進めていく必要がある。

- ・避妊去勢後は、猫の飼育管理をしていく必要がある。

エサ場の管理、トイレの設置などの問題対策の必要があり、病気や怪我をした際には通院させることも必要である。猫の生殖機能を奪うかわりに、猫の健康を守り、なおかつ人間とのよりよい関係を作り保っていく責任が生じる。

活動を受け継いでいくシステムを作る必要がある。

京都市の対策・獣医師会の意見の資料に目を通して頂いての通り、野良猫による被害の防止や野良猫の頭数の増加には、一般的に**避妊去勢手術**での対応が取られています。

即効性のある対応ではありませんが、頭数が増えないようにすることで問題も減りますし、避妊去勢には猫の健康に対するメリットもいくつかあります。

ですが、避妊去勢手術によるデメリットも少なからずありますし、何より避妊去勢手術を行うことにより、猫の管理をしていく責任も生じてきます。

つまり、まちねこ活動(地域猫活動)は『猫の生殖機能を無くすかわりに、人間が世話をし野良猫の一代限りの生を全うさせながら、人間と猫の共生をはかる』という運動なのです。

また、避妊去勢以外にも問題の解決方法、対策はあります。

避妊去勢以外の対策

- ・猫の糞尿問題…トイレの設置、猫よけの設置
- ・猫の鳴き声 …猫が生息する限り防げないが、避妊去勢することで繁殖期の鳴き声はほとんどの場合解消できる。
- ・野良猫の増加…里親を探す。ただし最近では里親を偽った動物虐待や実験動物なども相次いでいるため、里親に適切な人格で、なおかつ室内飼いのできる環境にあるのか慎重に見極めて譲渡する必要がある。

なお、保健所に持ち込み(=殺処分)という手段もありますが、近年の動物愛護の発展によりこれはやむを得ない場合の最終手段とされております。

猫も命ある動物でありますし、大学という環境であることも考え、殺処分は避けるべきと考えます。

また、上記の対策はあくまでもその場しのぎの対策であり、根本の解決には至りません。野良猫問題の根本的な解決には「これ以上増えないようにすること」が必要です。

避妊去勢のメリットとデメリット

メリット

- ・処分されることになる子猫が生まれない。
毎年殺処分される約20万頭のうち、8割が子猫。また、野良の母猫は1頭しか面倒を見ないケースも多く、カラスやイタチなどの他の野生動物に襲われて命を落とすケースが後を絶たない。
- ・メス猫の妊娠・出産に係る負担がなくなる。
- ・オス猫の放浪癖、喧嘩、尿スプレー(マーキング)などが抑制される。
- ・生殖器の病気や交尾でうつる猫白血病などの防止ができる。

デメリット

- ・手術中の麻酔は少なからず猫の負担になる。
- ・避妊去勢済みの猫でも何らかの印(耳カット、ピアス、入れ墨)が施していない場合、麻酔をし開腹するまで分からないため、再度負担をかける可能性がある。
- ・メス猫は開腹する範囲がオスに比べ大きいため、術後2、3日は様子を見る必要がある。

ただし、獣医師やゼロの会に伺ったところ、デメリットが起こるケースはごく稀だそうです。

デメリットもありますが、猫の健康にとっても猫と人間の共生にとってもメリットのほうが大きく、避妊去勢は野良猫問題に効果的な手段であると言えます。

避妊去勢を行う際の工程

避妊去勢を行うためにはねこを捕獲する必要があります。

捕獲に必要な道具は「捕獲器」と言います。私たちが所持しているのは、太い針金が格子状に編まれた箱形のもので、ねこを安全に捕まえられるよう設計されています。内部にエサを設置し、ねこがそのエサを食べると仕掛けが連動し、入り口が閉まる仕組みになっています。現在すぐに用意できる捕獲器は成猫用が3つと子猫用が1つです。

また、捕獲したねこを捕獲器から安全に取り出すための専用網ネットも準備しています。これは捕獲器を覆い被せるよう作られており、ねこを取り出す際に引っかかるなどの危険を軽減します。なお、ねこをネットに入れて移動させることは一般的であり、決して虐待などではありません。

以上のように、ねこを捕獲する準備は整っています。

実際に避妊去勢を行う際の作業工程を説明します。

- 1, エサ場の付近に捕獲器を設置しねこが捕まるのを待ちます。
捕獲器の設置はゼロの会が手術をしてくださる月末の週に行います。
捕獲器からねこを取り出す際には専用の網ネットに入れます。
- 2, ねこが捕まれば手術までの間、猫を一時保護します。
- 3, 手術の日にゼロの会までねこを運搬します。
運搬方法については検討中です。
- 4, ゼロの会で手術をして頂きます。
この時に手術完了の証としてオスねこは右耳、メスねこは左耳をほんの少しカットします。
耳をカットすることで、手術済みのねこが未手術と勘違いされ再び手術されることを防ぐ意味も持っています。
- 5, 手術が完了したねこは再び学内に放し経過を観察します。

ねこの捕獲と言っても、毎月必ずねこを捕獲し手術をすることは不可能です。1匹も捕まえない時もあると考えられます。長い期間かかることが予想され、根気よく活動続ける必要があります。

避妊去勢手術以外の活動について

避妊去勢手術を行った後は、ねこ達が少しでも長く生き寿命を全うできるよう、生活環境を整える活動を予定しています。ただ、避妊去勢は一度に全てのねこに施す事は不可能です。手術を行いつつ、環境整備の活動も並行して行います。

具体的な活動は以下の項目です。

- ・エサ場を決め、朝と夕のエサやりを行う
(衛生のため食べ残したエサは回収します)
- ・ねこの健康状態のチェック
- ・病気やケガを負ったねこの看病、薬の投与
(大学近くの和田獣医さんに協力をお願いしています)
- ・ねこの住処をつくる
(段ボール箱に毛布を敷いたものなど、簡単な家をつくります)
- ・学内のねこの個体判別、把握

この活動は私たちの代だけにとどめては意味がありません。後輩たちに引き継いでもらい、長期的に活動を継続していきます。

避妊去勢にかかる予算・資金運営について

避妊去勢手術は「ゼロの会」に依頼しようと考えています。ゼロの会は殺処分をなくしようと活動しているボランティア団体で、動物病院よりも格安で避妊去勢手術を施しています。料金はメスねこ1匹10,000円、オスねこ1匹5,000円ですが、手術費を値下げしていただけないか交渉する予定です。

学内のねこ約25匹のうち5匹は手術済みであることが確認されています。残りのねこを20匹と仮定して、全てに手術を施すのですが、捕まえてみないことには性別の判別ができず、雌雄でそれぞれどれだけの個体数があるのかが分かりません。ですので、予算の最高額と最低額のみ提示させていただきます。

最高額 20匹全てがメスねこと仮定した場合
 $10,000 \times 20 = \text{¥}200,000$

最低額 20匹全てがオスねこと仮定した場合
 $5,000 \times 20 = \text{¥}100,000$

また、ねこたちが繁殖期に入り、妊娠した疑いのあるねこの目撃情報も入っています。子猫が生まれた場合、里親を探しますが、里親が見つからず学内に住みついてしまった場合は手術を行いますので、予算の最高額は今後さらに増えるかもしれません。

資金については学生・教員からのカンパや、学園祭での催し物で費用を集めることの他に、蒼山会からの援助を受けることを考えています。また、学部長大野木先生もねこの問題に真剣に取り組んでおられ、蒼山会のみならず自治会からの援助も受けてはどうかとのアドバイスを頂いており、資金運営については現在検討中です。

参考資料 1

東京都内の大学での取り組みについて

・学習院女子大学

教職員20名程で構成されているねこを保護する団体「猫の会」が活動中。学内に住みついたねこが問題視された際に発足。代表者は顧問の平野教員。ねこを病院に連れて行ったり、長期休暇中にもエサをやるなど活動は活発な模様。その後、学生による愛好会も発足し、文化祭で写真展や募金活動を行う、教職員との懇談会を開くなどしている。

・東京海洋大学

近所の主婦数人で構成されるボランティアグループ「地域猫の会」が海洋大のねこの保護活動を行っている。30匹以上のねこが住みついており、大学側と協力し世話のみならず避妊去勢手術にも取り組んでいる。

・東京学芸大学

1993年頃からねこの問題が増加し、ねこが凍死する事件の発生をきっかけに当番制でねこの世話をするようになる。補助金や寄付金で地道に避妊去勢手術を続け、ねこの頭数を70匹から30匹にまで減らすことに成功。実際に世話をしている事務員の林さんは「大学に猫がいることが絶対にいいことだとは思わないけど、よそにやるわけにもいかないし、結局ここにいるのが一番でしょう」と考えを示している。

・東京造形大学

主に彫刻科の田村教員が学内のねこ8匹の世話をしている。以前ねこが繁殖しすぎた際にカンパを募り避妊去勢手術を行った。以降、エサやりや病気になった時の世話などを続けている。

・立教大学

1990年の新座キャンパス設立当初からねこが住みつき始め、かわいがっていた生徒や職員が実費で去勢手術行ったり、ねこの保護活動が続けられてきた。キャンパス近くの動物病院の協力も得ている。

(出典 「大学猫のキャンパスライフ」 NEKO-PICASO著 2008年 雷鳥社)

大学内の野良猫に関する問題は複雑で、大学によっては学内のねこに何らかの対処を施していても、関連する情報を公開していない所が数多くあります。

参考資料2

猫の繁殖について

- ・メス猫は生後約6ヶ月で成熟する(=妊娠することができる)
- ・オス猫は生後約8ヶ月で成熟し、18ヶ月頃から放浪癖、喧嘩、尿スプレー(マーキング)が顕著になる。
- ・猫の繁殖期は初春から晩秋。
- ・年に3～4回発情し、交尾すればほぼ妊娠する。
- ・妊娠期間は60日前後
- ・1回あたりのお産で4～8匹(平均5匹)の子猫を出産する。
- ・メス猫は健康であれば寿命が尽きるまで出産する。
- ・近親交配を繰り返すことにより、奇形や先天性異常を持った子猫が産まれる可能性がある。

以上のように、猫は繁殖力が強く今後もどんどん増えていく可能性が大いにあります。